



まちづくり懇談会の様子

原田市長をはじめ市執行部と、コミュニティ役員等が市行政問題を懇談する「まちづくり懇談会」が、十月十九日午後七時から働く女性の家で開催されました。この懇談会は、昨年までは地区の区長会と市執行部による「行政懇談会」の名称で開催されていたもので、今回からは「コミュニティ運営協議会」と話し合っていくことになったものです。

懇談会には、市側が原田市長、谷井助役及び提出議題に關係のある部課長（十名）が出席。コミュニティ側が、西山会長外役員、区長会、各部

原田市長と市幹部を迎えて まちづくり懇談会を開催

赤間地区「コミュニティだより」

第3号
平成16年12月1日

発行／赤間地区コミュニティ運営協議会広報委員会
TEL・FAX／0940-32-5640
印刷／企画 萌
TEL 0940-32-5662
<http://www.munakata.jp/wawawa>

美台・田久・京町
山・坂山・名務・原・富地
五丁目・広陵台五丁目・広陵台四丁目・広陵台三丁目・広陵台二丁目・広陵台一丁目・石丸・徳重・腰越・三郎丸岡地

会代表など（二十一名）が出席。はじめに原田市長が合併後の新市の現状や課題、来年度施政方針等について約三十分説明。引き続きあらかじめ提出していた五項目の議題について懇談を行いました。まず、議題ごとに担当部課長から回答が行われ、それに対して質疑要望が出されましたが、財政難を理由に、要望ごとの回答は得られませんでした。（提出議題及び市回答の概要については、十一月発行「ふれ愛通信」第四号に掲載）この後、財政問題やコミセンの運営、ふれあいバス等の質問があり、九時前に閉会しました。



理想的な生活環境としては、住み慣れた家で地域の人々がお互いに助け合い、生活していくことだと感じました。ボランティア

十月二十四日働く女性の家において、日赤看護大学と消費者センターから講師をお招きして講演会を行いました。参加者は六十名を超え、当初の予想を上回りました。

最初の講演はボランティア活動についてです。

高齢者を対象とした施設の分類、福祉施設と保健施設の違い、アルツハイマー病、脳血管性痴呆症などの説明がありました。痴呆症の人にとって大切なことは安心感を与えることで、声のかけ方、生活環境、人間関係に配慮が必要であることを強調されました。特に家庭的な雰囲気は重要で、痴呆症の改善に効果が見られることもあるそうです。また、施設に入所されている方にとって、ボランティアの方が世間話や昔の遊びなどを一緒に楽しむことで、生活の中に「生きがい」や「やる気」を持つようになることがあるということです。

「健康福祉部会・環境整備部会」合同講演会を開催



消費者センターの方々が役者顔負けの迫真の演技

ンティアと難しく考えず、まずいろいろな人々と、話をしてみることに、隣り近所の人に挨拶をすることから始めてはどうでしょうか。

二番目の講演は高齢者を狙う悪徳商法についてです。

点検商法、無料商法、次々販売、オレオレ詐欺などを消費者センターの方々が役者顔負けの迫真の演技でわかりやすく説明をしていきました。初めから終わりまで、笑い声が絶えず楽しく理解していくことができたようです。悪徳商法の説明会は、いつでも行っていたらいいそうです。自治会の敬老会や何かのイベントの時に、来ていただければどうでしょうか。

コミセン建設 に向けて

十一月になり、めっきり寒くなつて、落ち葉が降り積もる頃、赤間地区コミュニティセンター整備のための、「基本計画ワークショップ」も十二月十二日の第六回最終回の会合を前に急ピッチで作業が進んでいます。

これまでにコミュニティ運営協議会で検討してきた敷地を赤間二丁目の陵厳寺よりの田んぼに特定して、宗像市が買取作業に入りました。

同時に各区から選出された基本計画ワークショップのメンバー五十五名によって、その敷地に配置する諸設備が決定されました。

現在は、五班に分かれて検討し、決定されてきた設備や間取りを一つにまとめる作業に入ったところです。

これが終わると建設業者が決まり、いよいよコミセン建設に向けての本格的な作業が始まることとなります。

第1回目



グループに分かれて話し合った
コミセンへの夢や要望を発表する。

第2回目



津屋崎町の宮司コミセンに見学に行く。

第3回目



グループで話し合っ
て決めた具体的な部屋名を発表する。

第4回目



建物の配置や間取りを
各グループで作業し話し合う。

『施設見学』 実施

十一月八日、参加者三十三名で身体障害者や高齢者を対象とした施設を見学しました。

初めに訪問したのは、福岡県厚生事業団が運営する『身体障害者リハビリテーションセンター』（古賀市）です。

この施設は、身体障害者福祉法による定員百名「通過型」の入所訓練施設です。身体に障害のある人に対して医学的・社会的リハビリテーションを提供し、身体機能の改善や社会適応能力の回復を行い社会復帰を目指しているそうです。

次に訪問したのは、介護老人保健施設『ナーシング・ケア宗像』（福岡町）です。

この施設は、介護が必要な方に医療と看護、介護、リハビリ訓練を提供し、療養しながら機能の向上と自立を高め、家庭復帰をめざす施設です。老健と呼ばれ介護保険で認定された方が利用しています。入所、短期入所、デイケアの利用ができます。

リハビリ訓練では、医師や理学療法士、作業療法士の専

門家が、利用者に最適な訓練を実施していました。

次は「グループホーム福岡」です。痴呆のある高齢者の方が、それぞれの暮らしを大切にされた家庭的な環境の中で共同生活をしていました。

最後は介護老人福祉施設『筑前顕慈園』（福岡町）です。入所、デイサービスの利用ができます。老人ホームと言った方が分かりやすいかもしれません。

ここは、初めの二つの施設と違い入所期間に制限のない生活施設でした。

今回の見学をおして、肢体不自由者更生施設、老人保健施設、老人福祉施設、デイケア、デイサービスの違いについて、理解を深めることができました。のではないかと思います。



ナーシング・ケア宗像にて

公民館活動 部会



グラウンドゴルフ大会の1コマ

十月には、城山中学校文化祭に、赤間地区公民館関連の作品を展示、好評でした。

また、宗像市公民館連合会主催のグラウンドゴルフ大会では、赤間地区代表の三郎丸団地が一般の部で、広陵台一丁目が世代間の部で、それぞれ優勝しました。

十一月には、城山ふれあい登山を実施。百十名の参加がありました。公民館活動部会の行事は、各行事も百から二百五十名もの参加があり大変ですが、部会員全員でがんばっております。

青少年育成 部会



親子で作る楽しい料理教室

◆親子映画鑑賞会
「もも子・かえるの歌が聞こえるよ」
六月二十六日(土) 赤間小学校体育館で実施。
大人、子ども合計約三百八十名参加。上映後アンケート実施。「とてもよかった」「たくさんみたい」という声が多く聞かれました。

◆夏休み夜間パトロール
七月十七日(土) から八月三十一日(火) までの二十八日間。城山中学校の保護者、指導員、ボランティアを含め、合計百六十三名で校区内の危険箇所を中心にを行いました。

健康福祉 部会

今年度予定していた事業の内、「赤間西コミセン健康福祉部会と交流研修会」「親子で作る楽しい料理教室」「健康福祉部会・環境整備部会合同講演会」「福祉施設見学」を実施しました。

親子で作る楽しい料理教室では、六組の親子が参加し保健師や食進会会員の皆様と一緒に、四品の料理を楽しく調理し舌鼓をうちました。

現在、世代交流事業として、昔の遊びテキストを作成中です。

コミセン建設のためのワークショップでは、介護予防を実施できる会館づくりを提案し実現できるように努力しています。

これからも講演会や障害体験等を予定しています。奮って参加してください。

また、来年度の事業計画の参考にさせていただきますので、皆様のご意見をホームページまたは事務局までお寄せください。

環境整備 部会

先進地視察研修
七月八日に、「美花美化週間の設定」「花いっぱい運動」「壁新聞『環境』による環境情報の提供」「買い物袋持参運動やリサイクルの推進」など活発に活動されている甘木市を訪問しました。市役所で説明を受け、懇談をしました。花による美化運動
九月十九日に秋の花苗を植え替え、前回同様、働く女性の家・赤間公民館・赤間交番に設置しました。

講演会の開催
十月二十三日に、全国消費生活相談員協会九州支部相談員・池山喜美子先生をお迎えして「高齢者を狙う悪質商法」というテーマで講演会を開催しました。

防犯冊子の作成
「悪質商法」冊子を作成。全戸に配布しました。

釣川清掃活動
平成十七年三月六日(日)に、じんごう橋・鍵橋間の桜づつみ公園の清掃を予定しています。皆様のご参加をお願いいたします。

地域づくり 部会



ガイドブックの編集風景

コミュニティの各部会や商工会の協力を得て、お蔭様で今年も第八回九州大道芸まつりを興奮とともに無事終了することができました。終了の際に雨足が強くなり、雨の中ひしょ濡れになりながらの片付けにご協力いただいた実行委員会の皆様、大変お疲れ様でした。

「赤間地区の歴史・観光ガイドブック」の発行につきましましては、着実に準備が進んでいます。現在、各区の関係者に行政区の紹介文をお願いしたり、歴史・観光・自然・公共施設・人物・年表等を有識者の協力のもと各編集委員それぞれが、執筆を担当して持ち寄り、校正を重ね五月初めの発行・全戸配布を目標に頑張っております。

行政区紹介

田久

田久区は、釣川の左岸に沿って、田久橋から鍵橋まで集落が東西に長く続いています。「田久」の地名は江戸期から田久村の村名でしたが、明治二十二年町村制施行で行政村の赤間村の大字名となり、現在まで続いてきました。なお本年十一月から住居表示が実施されました。

田久区は平野部に位置し農村集落でしたが、昭和四十年代以降、次のように住宅開発、学園都市へと飛躍的な発展をみました。



田久桜公園

- ① 森林都市自由ヶ丘団地の開発 (昭和四十年)
- ② 東海大学福岡校舎開校 (昭和四十一年)
- ③ 赤間小田久への移転新築 (昭和四十一年)
- ④ 東海大学第五高校開校 (昭和四十一年)
- ⑤ 東海短大開校 (平成元年)
- ⑥ 学園通り・桜美台団地の完成

現在では戸数七百五十戸、人口約二千人と飛躍的な増加を見ました。

田久区の各団体の活動も活発で、アンビシャス広場では老若男女憩いとふれ合いの場になっています。

桜美台

桜美台は、田久地区の東南に隣接する地に、総区画三百十五区画を有し、平成十二年九月に街びらきが行われ、現在約二百五十世帯が入居している新しい街です。入居者は三十・四十歳代が多く、小学児童においては、百五十名を超えている子ども中心の街となっています。

桜美台の地名は、団地から望む釣川において、宗像市の「桜(つみぎ)アル事業」が整備されていることから、団地



桜美台入口の風景

のイメージフラワーとして桜を選定し、美しい桜並木を望める大地にふさわしい地名として、命名されました。

桜美台自治会は、良好な地域社会の維持および形成を目的として、平成十三年四月に発足しました。自治会発足以来、桜美台の環境整備や生活基盤の整理等を急務として取り組んできました。

また、現在桜美台公民館の建設に向けて準備を行い、平成十七年度完成を目指しています。この公民館が完成すれば、子ども会や各種サークル等の設立など、桜美台の自治活動が活発になるものと思われまます。

広陵台

広陵台には団地のほぼ中央より南西側に小さい丘陵があら

ります。そこが広陵台古墳公園です。その公園に名残遺跡群として史跡碑が建立されています。

それによりますと広陵台団地およびその周辺には、たくさん古墳群が存在しています。弥生時代をはじめ古墳時代、中世の集落と墓地等検出されています。

弥生時代の集落には竪穴住居、貯蔵穴等があり、古墳時代には石棺墓、石棺土壙墓、前方後円墳、円墳、中世には製鉄炉や古墳の石室を再利用した墓および木棺など各時代のさまざまな遺構が検出されています。

また、それぞれの時代の武器や農具、ヒスイ製の勾玉やガラス小玉などが出土しており、この地域の古代史が明らかになっております。

現在では往時のおもかげはありませんが、歴史的には素晴らしい地域です。



子どもみこし

編集後記

◆ 昨年十月にコミユニティ運営協議会がスタートして一年◆ 主催事業も、親子映画鑑賞会、夏休みパトロール、グラウンドゴルフや大道芸まつり、講演会開催、などやっと軌道に乗ってきました。◆ コミュニティ・センター建設計画も、ワークシヨップでだんだん形が見えてきました。◆ 「話・和・輪」の紙面も四ページでは、情報量を割り付けるのに四苦八苦。事務局だより「ふれ愛通信」で、できるだけカバーしたいと思えます。◆ これから寒さに向かいます。風邪にくれぐれもご用心。

Y・Y

平成十六年度広報委員
 占部玄海・井手新・仲尾等・古里百合子・小方美香・兔洞孝義・神山義信・吉田義男・清水睦美・實田照香

